

## (5) 廃棄物

工事に伴い、コンクリート塊を530.5m<sup>3</sup>、アスファルト・コンクリート塊を174.5m<sup>3</sup>、その他がれき類（路盤材）を190.4m<sup>3</sup>、木くずを113.0m<sup>3</sup>排出した。

また、土工及び山留め掘削工により建設汚泥を17.9m<sup>3</sup>排出した。

排出した廃棄物はすべて再資源化施設に搬出した。

建設発生土については3,008.5m<sup>3</sup>発生し、一部(1,050 m<sup>3</sup>)は現場内で再利用した。残り(1,958.5m<sup>3</sup>)は公共工事等の建設発生土の利用機関である建設資源広域利用センターに搬出し、発生土の再利用を図った。

発生した廃棄物及び建設発生土の再資源化率及び再利用率は、すべて100%であった。

## 5 その他

### (1) 事後調査を実施した者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地並びに事後調査委託を受けた者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

#### 【実施者】

名 称：東京都

代 表 者：東京都知事 小池 百合子

所 在 地：東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

#### 【受託者】

##### ・平成30年度（平成30年4月～11月）実施分

名 称：東洋技建株式会社

代 表 者：代表取締役 榎本 敦幸

所 在 地：東京都千代田区神田小川町二丁目 6 番 3 号

##### ・平成30年度～令和元年度（平成30年12月～令和2年3月）実施分

名 称：株式会社 豊産業

代 表 者：代表取締役 三尋木 文人

所 在 地：神奈川県横浜市中区西竹之丸 27 番地

### (2) 添付資料等一覧

#### ア 事後調査の結果

① 騒音（別紙1）……………p.7

② 振動（別紙2）……………p.35

③ 地盤（別紙3）……………p.47

④ 水循環（別紙4）……………p.61

⑤ 廃棄物（別紙5）……………p.69

⑥ その他の環境保全のための措置の実施状況（別紙6）……………p.74

イ 環境影響評価手続等の状況（別添1）……………p.81

ウ 事後調査の進捗状況（別添2）……………p.83

### (3) 連絡先

ア 名 称：東京都北多摩北部建設事務所

イ 所 在 地：東京都立川市柴崎町 2-15-19

電話番号：042-540-9513

ウ 担当部署：工事第一課環境対策担当

## 環境影響評価手続等の状況

## 1 環境影響評価手続の状況

環境影響評価手続の状況は、表 7-1 に示すとおりである。

表 7-1 環境影響評価の手続の状況

環境影響評価の手続	提出年月日	備考
特例環境配慮書	平成16年10月14日	
特例環境配慮書に係る見解書	平成17年 8月 4日	
環境影響評価書	平成18年 7月28日	
事後調査計画書	平成23年 1月17日	
着工届		
事後調査報告書（工事の施行中その1）	平成25年 4月11日	騒音・振動、電波障害、 史跡・文化財、廃棄物
事後調査報告書（工事の施行中その2）	平成26年 3月11日	騒音・振動、廃棄物
変更届	平成27年 7月21日	事業計画の変更
事後調査報告書（工事の施行中その3）	平成28年 3月 9日	騒音・振動、地盤、 水循環、廃棄物
変更届	平成28年 3月31日	事業計画の変更
事後調査報告書（工事の施行中その4）	平成29年 3月 9日	騒音・振動、地盤、 水循環、廃棄物
事後調査報告書（工事の施行中その5）	平成30年 1月18日	騒音・振動、地盤、 水循環、廃棄物
変更届	令和元年12月26日	事業計画の変更

## 2 許認可等の状況

関係許認可等の状況は、表 7-2 に示すとおりである。

表 7-2 関係許認可等の状況

許認可等の手続	根拠法令名・条項	許認可年月日
都市計画決定	都市計画法第 15 条第 1 項	昭和40年 4月13日
都市計画変更	都市計画法第 21 条第 1 項	平成18年 8月22日
都市計画事業認可	都市計画法第 59 条第 2 項	平成19年11月26日

### 3 工事の実施状況

事業の工程は、表 7-3 に示すとおりである。

現在、用地取得及びオーバーパス部、アンダーパス部及び平面部の工事を進めている段階である。

平成 22 年度は、工事着手前に埋蔵文化財包蔵地周辺において試掘調査を実施した。その後、平成 23 年度に準備工事を実施した。

平成 24 年度は、オーバーパス部において山留め掘削工及び橋梁下部工、アンダーパス部において土工、山留め掘削工及び舗装工を実施した。

平成 25 年度は、オーバーパス部において橋梁上部工、アンダーパス部において山留め掘削工を実施した。

平成 26 年度は、オーバーパス部において擁壁工、アンダーパス部において函体築造工、平面部において土工を実施した。

平成 27 年度は、オーバーパス部において側道の土工、アンダーパス部において函体築造工、平面部において土工を実施した。

平成 28 年度は、アンダーパス部において山留め掘削工、平面部からオーバーパス部において土工及び舗装工を実施した。

平成 29 年度は、アンダーパス部において山留め掘削工及び擁壁工、平面部において街築工・植栽工を実施した。

平成 30 年度は、アンダーパス部において擁壁工、平面部において土工及び街築工を実施した。

令和元年度は、アンダーパス部において山留め掘削工及び擁壁工、平面部において土工及び街築工を実施した。

表 7-3 事業の工程

項目	年 度																				
	平成18年度 (2006)	平成19年度 (2007)	平成20年度 (2008)	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 [令和元年度] (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
測量調査		■																			
用地取得			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
道路工事	平 面 部					■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	J R 中央線 オーバーパス部							■	■	■	■	■	■								
	西武国分寺線 アンダーパス部						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

### 事後調査の進捗状況

事後調査全体工程表を表 8-1 に示す。

今回の事後調査報告書は、「工事の施行中その 6」であり、調査期間は平成 30 年 4 月～令和 2 年 3 月とした。



